

日本最高峰のビーチスポーツ大会が集結！ 「ジャパンビーチゲームズ須磨」

NPO法人日本ビーチ文化振興協会
代表理事 佐伯 美香

須磨海岸の魅力为全国に発信

須磨海岸（兵庫県神戸市）は、神戸市の中心地「三宮」から電車で15分ほどの場所に位置し、「JR須磨駅」の目の前には全長1.8kmのビーチが広がる自然海岸である。

地域住民を始め、夏季シーズンには関西圏から多くの海水浴客が訪れ、賑わいをみせているが、以前はマナーの悪い海水浴客や騒音問題などが目立っていた。神戸市は、「誰もが安心して快適に過ごせる須磨海岸」を目指すため、騒音・花火の規制や禁煙、入れ墨の露出禁止など、健全化を図るための条例を制定した。さらに、家族連れや小さい子どもでも楽しめるように、砂浜の遠浅

化工事や海岸の下水道を整備したことで、海の家シャワーやトイレの排水も下水処理ができるようになった。

これらの取り組みを踏まえ、国際NGO「FEE（国際環境教育基金）」が認証する「ブルーフラッグ」を取得するため申請を行った。「ブルーフラッグ」は、「環境教育と情報」「水質基準」「環境マネジメント」「安定性・サービス」の4分野33項目の基準を満たしたビーチ・マリナーに与えられ、現在では、世界51カ国、5,121カ所が取得し、日本では14カ所の海水浴場・マリナーが認証を受けている。須磨海岸はその基準をすべて満たし、2019年に「ブルーフラッグ」を取得した。

リニューアルしたビーチは「安心・安全で快適な須磨海岸」の魅力を広くPRするため、2017年から「ビーチライフin須磨」を開催し、中でも、ビーチバレーボールやビーチウッドボールの一般大会は好評となった。

そして2023年、日本最高峰のビーチスポーツ大会が集結する日本初「ジャパンビーチゲームズ須磨」が開催され、大会を通じて全国に須磨海岸の取り組みを披露した。

ビーチゲームズ日本招致プロジェクト

このイベントは、世界で開催されているビーチ・マリンスポーツの国際大会「アジア・ワールドビーチゲームズ」を招致PRし、興味を持っていただくためのプロジェクト「ビーチゲームズ日本招致プロジェクト」の活動の一環として開催されてきた「ジャパンビーチゲームズフェスティバル」をより競技化した大会である。

海や砂浜を舞台にしたビーチ・マリンスポーツの総合大会「アジアビーチゲームズ」が、2008年にインドネシア・バリにて開催され、世界がその大会に注目した。そして、アジアの枠を超えて2019年「ワールドビーチゲームズ」がカタール・ドーハにて行われ、97カ国1237人の選手が集結し6日間にわたって13競技36種目



1.8 kmにのぼる須磨海岸

が実施された。

世界では積極的なビーチ資源の活用が活発的に行われ、観光誘客、経済活性に結びついている。

島国日本のビーチ資源を多分に活かし、「元気力・活性力・世界への発信力」に繋げるため、2014年「ビーチゲームズ日本招致プロジェクト」を発足した。

2017年には、ビーチバレーボールをはじめ、競技団体とネットワークを強化し、「ジャパンビーチゲームズフェスティバルおだいば（東京都港区お台場海浜公園）」をスタート。多種多様なビーチ・マリンスポーツの公式戦や体験会を実施し、第1回開催時には約60,000人が来場し、注目を集めた。

これに関心を寄せた千葉市が2020年に「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉（千葉県千葉市稲毛海浜公園）」を開催し、そして神戸市がより競技力を重視した「ジャパンビーチゲームズ須磨」の開催に向けて手を挙げた。

ジャパンビーチゲームズ須磨

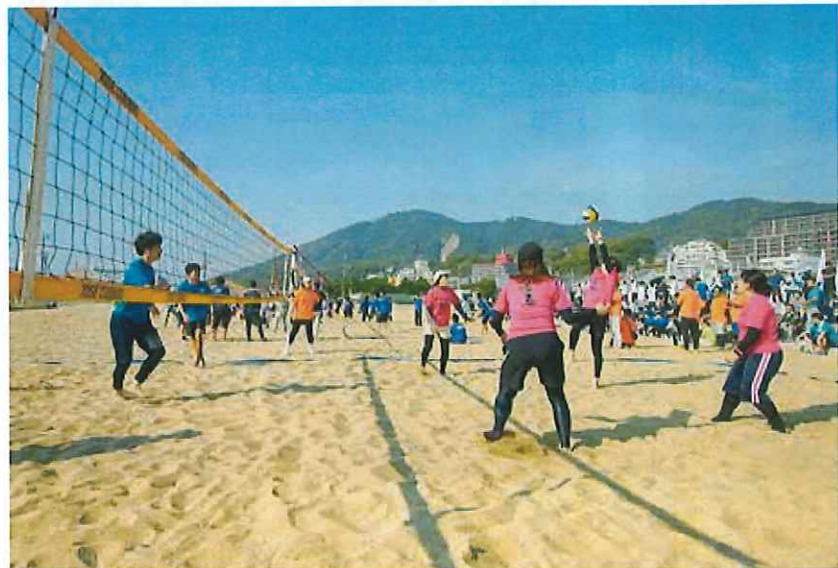
「ジャパンビーチゲームズ」は、ビーチ・マリンスポーツ競技の最高峰の公式戦を開催する大会であり、多種目の競技を同時に観戦できる大会は他にない。公式戦では、ポイント獲得、賞金、日本代表を決定するなど、選手のパフォーマンス力も非常に高い。唯一無二のビーチスポーツ総合大会「ジャパンビーチゲームズ」が須磨海岸でスタートし、2024年に2回目の開催を迎えた。



アーバンスポーツで人気のスラックライン



ビーチコーフボール



ビーチバレーボール佐伯美香カップ



ビーチ相撲



すまいる食堂

開催を盛り上げるため、神戸市協力のもと、神戸市内の商業施設、電車、駅構内、バス車両など公共交通機関にイベントポスターを掲示、駅構内のデジタルサイネージを活用したイベント告知、地元のキーメディアでのCM出演など、ありとあらゆる宣伝をしたことで、市内から近県までの大きなPRにつながった。

10月5日(土)、6日(日)の2日間で関西圏を中心に他県から約25,000人の来場者が訪れ、ビーチスポーツの公式戦6種目、体験会11種目のプログラムが大会を盛り上げた。

公式戦には、今年新たなスポーツ「ビーチコーフボール」が参画した。オランダ発祥のスポーツで、世界約69ヵ国で行われている「コーフボール」は、バスケットボールに似た球技で、男女混合8人制で行われ、ドリブル禁止、2歩以内の移動制限、360度シュートが可能などのルールが特徴的である。運営した日本コーフボール協会としても、初めての大会を開催し、埼玉県や愛知県、岡山県など全国から7チームが参加した。体育館などのインドアで行うこ

とと違い、「砂」「風」「日差し」など自然の中でのプレイに最初はぎこちなかった選手の動きも、徐々に慣れていった様子で、ビーチならではのダイナミックなプレイやスピーディーな展開に、選手たちも笑顔を見せ、ビーチスポーツの魅力を感じていた。

2日間に渡る熱戦を制した優勝チームはトロフィーを掲げ、喜びを分かち合い、スマートフォンで記念撮影をして、その様子をSNSへアップした。日本コーフボール協会も大会を通じて、「ビーチ」の魅力を再認識し、今後の発展に意欲を見せていた。

「観る」だけではなく、「体験」できるのも、「ジャパンビーチゲームズ」の人気のひとつである。体験会の中で盛り上がりを見せていたのが、「ビーチ相撲(運営団体：公益財団法人日本相撲連盟)」であった。簡易的な土俵がつくれ、現役の相撲選手が土俵の周りで四股を踏む姿に、家族連れや外国人旅行者も近くに来てその様子をカメラに収めていた。体験会の「体当たりチャレンジ」では、子どもたちが力を合わせて選手を押し

出すことに挑戦。土俵際まで選手を追い込むと、「頑張れ!」と応援する声に、子どもたちもそれに応えるように力を入れ、選手が倒れると子どもたちは飛び上がって喜んでいった。さらに盛り上がりを見せていたのは、大人との取組みだった。大柄な参加者が顔を赤くして力いっぱい選手を押しでもビクともしない様子に、周りから「押せ!押せ!」と声援が送られ、一体感が生まれていた。運営した日本相撲連盟は、相撲を「観る」から「取る」楽しさを体感し、身近に感じてもらうことができたと、手応えを感じていた。まさに、日本独自のスポーツである。

同時開催イベント<ビーチライフin須磨2024>

夏の海水浴だけでなく、四季を通じて地域住民が須磨海岸を利用することで、「ヘルスアップ」「青少年育成」「海辺の環境保全」、そして、ビーチ・マリンスポーツを活用した「観光誘致促進」につながることを目的に、長年親しまれてきた「ビーチライフin

須磨」も、同時開催イベントとして会場を盛り上げた。

「ビーチバレーボール4人制一般大会～佐伯美香カップ～」 「ビーチウッドボール大村杯」は、年々参加チームが増え、ビーチバレーボールは56チーム303人、ビーチウッドボールは22チーム96人のエントリーがあり過去最多となった。両イベントの特徴は、地元企業の参加チームが多いことである。社員が家族を連れて参加する様子もあり、親を応援する子どもの姿や、企業間の交流も生まれ、まさに太陽の下の大運動会である。

そして、「ビーチライフin須磨」の誘客につながる「すまいる食堂」は、地元の飲食店約40店舗を超えるキッチンカーが並び、地産地消の料理や多国籍料理、スイーツなどが販売され、大いに賑わい感が増した。両日とも、「すまいる食堂」には行列ができ、売切れ店舗も続出するなど、盛況をみせていた。

海辺の環境保全活動

本イベントでは、地域と協働して「海辺の環境保全活動」にも取り組んでいる。海辺を守り、育て、創り上げていくことで、よりよい海辺環境を次世代に残せるよう、様々な活動を通じて啓発している。

ビーチスポーツアスリート、来場者、参加者とともに行う「ビーチクリーン活動」では、活動前に参加者に「オリジナルビーチクリーンバッグ」を配布している。メッシュ地のできたバッグを使用することで、砂が落ちてゴミだけが残りに、分別しやすい仕組みとなっている。使い捨てのゴミ袋とは違い、洗って繰り返し使えるエコバッグとしての機能も兼ね備えている。ビーチに遊びに行くときはこのバッグを持っていき、ゴミを持ち帰る習慣づくりが定着することを目指していきたい。

須磨海岸で藻場づくりや海洋保全活動などを行っている「須磨里海の会」も活動に参加。子どもたちと

一緒に「アマモの種植えポット」を作るブースを出展し、須磨海岸に住む海洋生物や海洋環境をわかりやすく説明しながら、豊かな海を守る大切さについて子どもたちに伝えていた。「アマモポット」はダイバーが海に潜り、一つずつ海底に植えられた。

「ビーチゲームズ日本招致プロジェクト」発足から10年が経ち、ビーチ・マリンスポーツ団体も33団体となり、一丸となって各地でビーチを盛り上げてきた。2025年には「ジャパンビーチゲームズ須磨」で国際大会を予定している競技団体もある。

「恵まれたビーチ環境」「神戸を象徴する景観」「優れた立地・利用しやすいデザイン空間」「都市とビーチの両方を楽しめる旅先」としての特徴、魅力を備えている須磨海岸。この強みを最大限に活かし、「ビーチ・マリンスポーツが楽しめる安心・安全で快適な須磨海岸」として市民のみならず、関西圏の方々にも親んでもらえるよう、今後も神戸市と連携を図り、港、海辺の発展を進めていきたい。



アマモの種まき



アマモポットを植える作業